

## U.S. Indicators

## マクロ経済指標レポート

## 米国 貿易赤字は予想外の小幅縮小(05年7月貿易統計)

発表日: 05年9月13日(火)

~ 7月は嵐の前の静けさ 8月以降の再拡大は避けられない情勢 ~

(No. UI - 100)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

## 貿易収支 (U.S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入		財	
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports	財 Goods	Imports	財 Goods		
04/08	541.95	571.03	+29.08	+0.3	(+14.5)	+0.5	+2.2	(+21.1)	+1.9
04/09	519.39	556.27	+36.88	+1.2	(+13.3)	+1.4	0.7	(+17.0)	0.4
04/10	555.74	594.32	+38.58	+0.9	(+11.4)	+0.4	+3.0	(+18.9)	+3.3
04/11	589.78	632.32	+42.54	+0.1	(+8.7)	0.9	+2.3	(+20.9)	+2.4
04/12	546.72	595.14	+48.42	+3.1	(+12.3)	+3.5	0.8	(+16.4)	1.0
05/01	585.76	626.97	+41.21	+0.5	(+14.2)	+0.8	+2.8	(+18.6)	+2.9
05/02	604.22	647.39	+43.17	0.8	(+9.8)	1.2	+0.6	(+17.1)	+0.9
05/03	540.55	588.94	+48.39	+1.4	(+8.0)	+1.1	3.1	(+10.4)	3.7
05/04	577.24	623.16	+45.92	+2.8	(+12.0)	+4.2	+4.2	(+14.4)	+4.9
05/05	561.09	607.82	+46.73	0.0	(+9.7)	0.1	1.0	(+11.5)	1.2
05/06	594.93	638.31	+43.38	+0.1	(+12.3)	+0.1	+2.1	(+10.8)	+2.3
05/07	579.40	625.68	+46.28	+0.4	(+10.4)	+0.5	0.7	(+11.3)	0.6

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
	産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		産業資材	資本財	自動車	消費財	
04/09	+1.7	+2.3	0.1	0.3	+1.4	0.4	3.7	+2.2	+1.5	+0.5
04/10	+0.2	+2.7	+0.2	0.1	+0.2	+3.3	+8.0	+0.9	+0.6	+2.2
04/11	1.0	0.7	2.0	1.4	+0.2	+2.4	+6.6	0.7	1.7	+3.3
04/12	+3.4	+3.2	+3.7	+4.9	+5.2	1.0	4.8	+0.4	+1.2	+0.3
05/01	+0.7	+1.0	0.2	+2.2	+0.7	+2.9	0.5	+4.3	+2.6	+5.1
05/02	1.2	+0.8	1.8	5.1	+0.9	+0.9	+4.1	3.6	0.7	+3.4
05/03	+1.3	0.1	+3.0	0.7	0.7	3.7	0.1	1.2	6.8	9.6
05/04	+4.2	+4.6	+5.5	+2.2	1.4	+5.0	+4.6	+7.8	+1.8	+5.1
05/05	+0.0	+1.4	2.9	1.9	+4.7	1.2	5.6	1.9	+4.9	+1.0
05/06	+0.1	0.9	+1.9	+1.2	2.2	+2.3	+5.3	+4.1	0.6	+0.2
05/07	+0.2	+1.8	+0.6	+1.6	+0.5	0.6	+1.1	2.2	+0.6	2.2

(注) 季節調整前月比伸び率。

\*1: Industrial supplies and materials

\*2: Capital goods, except automobiles

\*3: Automobiles vehicles, parts and engines

\*4: Consumer goods, except automobiles

	輸出					輸入						
	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本		
04/08	+15.3	+23.7	+18.0	+11.0	+9.8	0.2	+24.3	+25.2	+20.5	+18.4	+23.5	+17.2
04/09	+15.5	+14.6	+14.0	+14.7	+16.2	+7.0	+16.3	+12.0	+20.6	+7.0	+18.5	+11.3
04/10	+10.7	+9.1	+10.0	+10.3	+8.3	+16.4	+15.1	+11.3	+18.7	+6.2	+12.1	+6.1
04/11	+7.9	+14.2	+15.4	+4.1	2.7	5.1	+27.0	+22.7	+26.8	+16.5	+24.6	+14.2
04/12	+13.5	+15.3	+14.8	+17.2	+3.7	0.6	+15.9	+13.5	+15.1	+8.0	+16.4	+9.5
05/01	+12.1	+16.1	+14.3	+10.3	+5.5	+0.6	+18.1	+14.8	+17.4	+15.8	+17.0	+11.3
05/02	+7.6	+12.0	+9.5	+6.5	0.2	0.2	+16.9	+13.1	+15.4	+7.2	+22.5	+7.2
05/03	+7.4	+9.5	+5.5	+4.4	0.3	2.9	+9.6	+6.4	+13.3	+2.1	+8.8	+8.6
05/04	+12.6	+12.5	+11.9	+11.0	+6.9	4.2	+13.8	+9.0	+20.4	+5.4	+10.5	+4.6
05/05	+9.4	+12.2	+12.8	+8.6	0.6	4.9	+14.6	+8.5	+16.0	+14.1	+13.4	+8.9
05/06	+13.4	+13.4	+14.1	+12.8	+8.7	+5.2	+11.1	+3.3	+14.1	+9.6	+11.7	+8.6
05/07	+9.3	+4.0	+10.9	+9.7	+7.9	+3.6	+10.4	+4.2	+11.8	+8.2	+9.1	+2.9

(注1) 未季節調整前年比伸び率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

579.40 億ドルと  
赤字額は市場予想を  
下回った

05年7月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、579.40億ドルの赤字(前月比 2.6%)と市場コンセンサスの 598億ドルへの拡大に反し縮小した。サービス収支の黒字額が小幅拡大し、財収支の赤字額は縮小した。輸出は、産業資材、自動車を除く資本財、自動車、消費財の増加により前月比0.4%

と加速した。一方、輸入は自動車、原油等産業資材が増加したものの、自動車を除く資本財、消費財の減少によって同 0.7%となった。原油は輸入量が3億1202万バレルに減少したものの、価格が1バレル=49.03と急上昇したため前月比+3.3%増となった。

### 今後は、原油価格の上昇やハリケーンの襲来に伴うガソリン・原油の輸入急増により貿易赤字はさらに拡大する見込み

7月は輸出が半導体、民間航空機、自動車の増加によって小幅拡大し、輸入が民間航空機、油田掘削機、コンピューター、調合薬等の縮小により減少に転じたため、赤字額は前月から縮小した。しかし、今後に関しては、8月に原油価格が最高値更新を続けたこと、さらにハリケーン「カトリーナ」の襲来に伴うIEA加盟各国の戦略備蓄の放出決定により9月にガソリン、原油の輸入急増が見込まれることに加え、内需の好調から原油以外の輸入も高水準で推移するとみられることから、貿易赤字は過去最高を更新すると予想される。

貿易赤字を大幅に縮小させるためには、輸入が減少するか、輸出が大幅に増加する必要がある。しかし、輸入を減少させるには、国内の消費を抑制しなければならず雇用の拡大ペースが鈍化、或いは減少し、景気後退に陥るリスクがある。このため、輸入が増加するなかで輸出が大幅に拡大する必要がある。この方法としては、

貿易相手国の輸入障壁の撤廃、輸出先の米国を上回る高い成長(米国輸入の所得弾性値が貿易相手国よりも高く上昇トレンドにあるため)、ドル実効レートの減価、が挙げられる。については、貿易相手国の輸入障壁は簡単にはなくなり、また貿易相手国の金融財政政策が米国ほどの柔軟性に欠けるため米国以上の高い成長も期待できない。現状の貿易・経済構造では米国の貿易赤字の大幅な削減は難しいと考えられる。ドルの実効レートは、景況感・金利格差を背景に下げ止まっている。また、7月21日の元切り上げは小幅なものにとどまり、その後も水準がほとんど変わっていないため、貿易不均衡の解消にほとんど貢献していない。

### ドル円相場は11月にかけてレンジ相場持続

年末にかけて、財政支出の拡大による景気加速期待の高まりによって米国の金利が上昇し易いことに加えて、米雇用創出法の2005年末終了に伴う米国への資金還流の増加が見込まれることから、ドル需要が強まるとみられる。一方、原油価格の高止まりや成長率格差によって貿易赤字の拡大が続くと予想され、経常赤字の拡大傾向に歯止めがかかる可能性が低いことから、ドルの上値を抑制する要因となる。さらに、日本経済の回復感が一段と強まるなか、当座預金残高の目標額引き下げといった金融緩和策の解除が視野に入ってくると予想されることから、ドル円相場は方向感のない展開が見込まれる。

### 対中、欧州、OPECでの貿易赤字額が過去拡大を更新

地域別の収支では、対中国が177億ドル(前年比+18.5%)と過去最大の赤字額となり、19ヵ月連続で地域別で最大の赤字国となった(貿易赤字全体の26.8%に縮小)。対欧州は112億ドル(同+6.5%)と過去最大の赤字額を更新し、欧州景気を下支えしている。今後も、高水準の対欧州貿易赤字が続くと見込まれるものの、欧米金利差の拡大や欧州景気の低迷から、ドルは対ユーロで強含み易い環境が持続しよう。対NAFTAが97億ドル(同+3.9%)、対日は66億ドル(同+2.4%)と高止まり、対OPECが89億ドル(同+47.0%)と原油価格の上昇を映

じて過去最大の赤字額となった。

**輸出は全部門の増加で  
前月比+0.2%**

通関ベースでは、輸出は産業資材、自動車を除く資本財、自動車、消費財が増加したため前月比0.2%と小幅拡大した。一方、輸入は原油等産業資材、自動車が増加したが、資本財、消費財の減少によって同 0.6%となった。

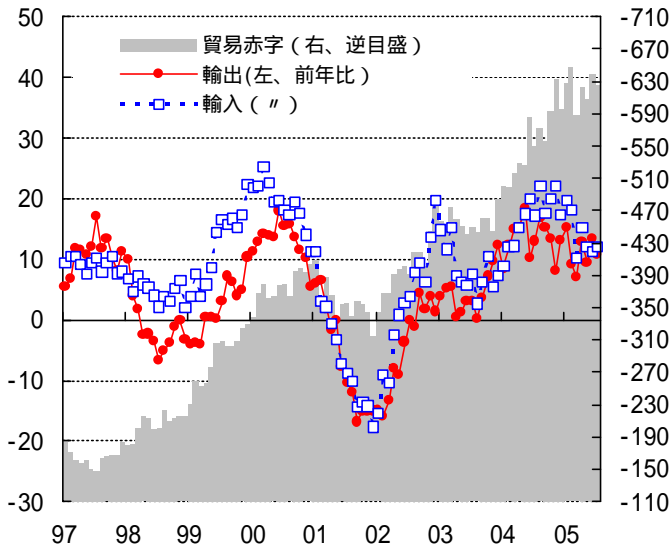
輸出の商品別内訳では、資本財は、通信機器が減少したものの、半導体、民間航空機、掘削機、コンピューター部品、金属加工機械の拡大により前月比+0.6%と2ヵ月連続の増加となった。自動車は同+1.6%と2ヵ月連続で拡大した。消費財は、調合薬が減少したが、ダイヤモンド原石、骨董品・切手等の増加によって同+0.5%と2ヵ月ぶりに拡大した。産業資材は、天然ガス、石油製品が減少したものの、綿、銑鉄、核燃料、化学、燃料油、原油等の増加によって同+1.8%と2ヵ月ぶりに増加した。

**資本財、消費財の縮  
小により輸入減少**

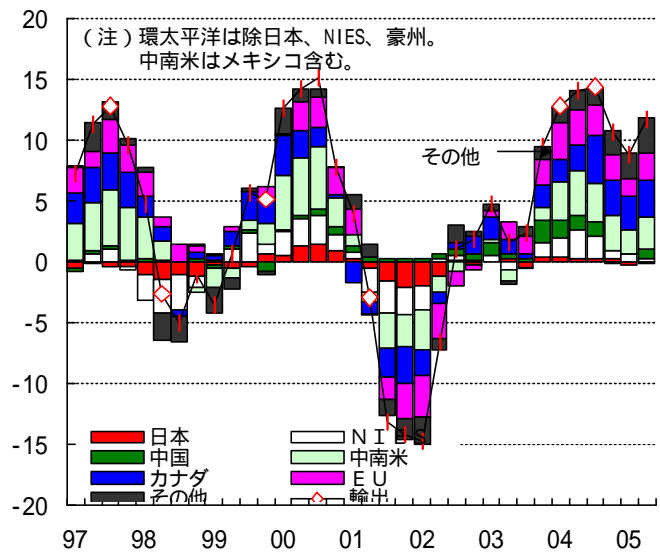
輸入の商品別内訳では、産業資材は、天然ガス、液化石油ガス、銑鉄が減少したものの、燃料油、原油、石油製品、アルミニウム等の拡大により前月比+1.1%と2ヵ月連続で増加した。自動車は同+0.6%と2ヵ月ぶりの拡大となった。一方、

自動車を除く資本財輸入は、半導体、電子装置、映像機器が増加したものの、民間航空機、油田掘削機、コンピューター、産業機械、産業エンジン、掘削機、通信機器、農業機械、発電機等の減少により同 2.2%と2ヵ月ぶりに縮小した。消費財はダイヤモンド原石、TV・ビデオが増加したが、調合薬、アパレル・繊維関連、宝石、玩具・ゲーム・スポーツ用品、靴が減少したため同 2.2%と4ヵ月ぶりの縮小となった。

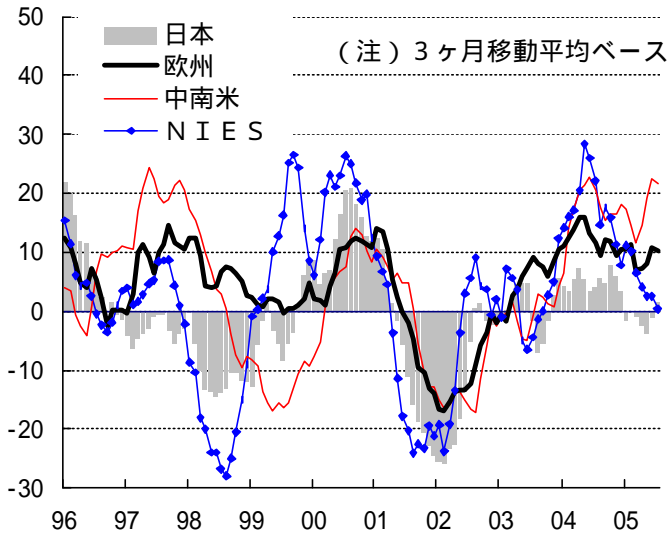
(%) 米国貿易動向 (財、BOPベース億ドル)



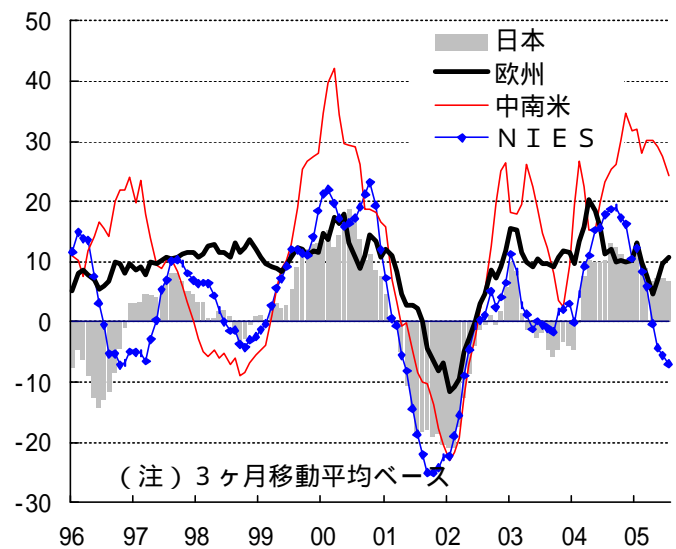
(%) 通関輸出地域別寄与度 (前年比) の推移



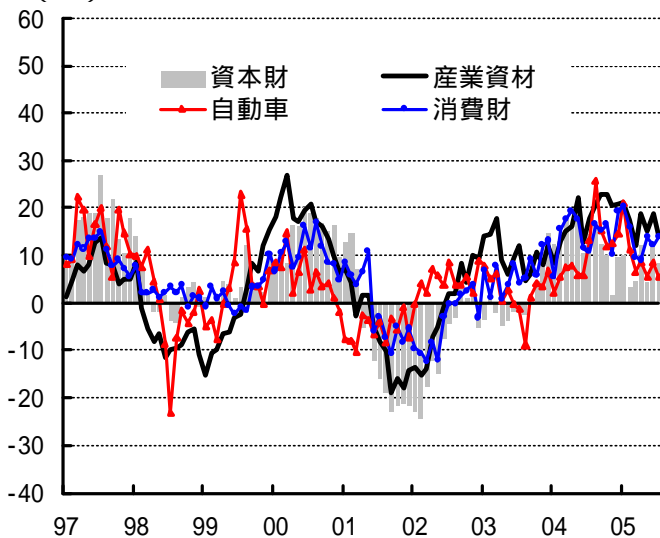
(%) 地域別輸出 (前年比)



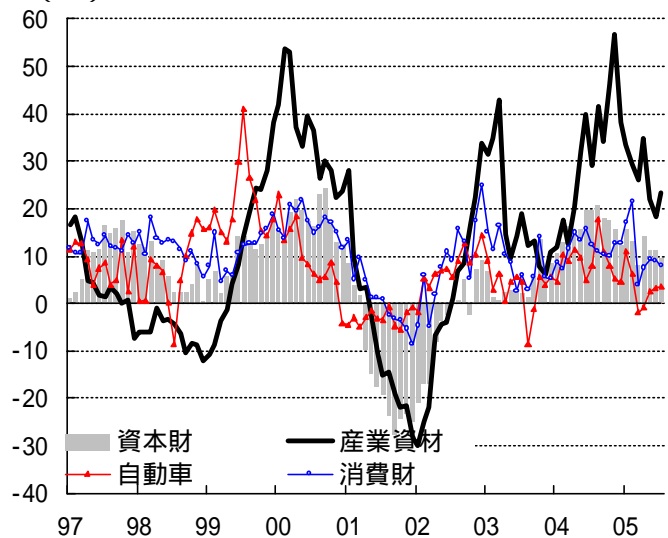
(%) 地域別輸入 (前年比)



(%) 財別輸出の推移 (前年比)



(%) 財別輸入の推移 (前年比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命いしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。